

利用者等に対するアンケートの結果等について

介護保険の施行状況に関する調査結果の概要

利用者に対する「介護保険の施行状況に関する調査」について、平成12年7月7日までに回答のあったもの下記のとおり概要としてとりまとめた。

実施方法=財団法人全国老人クラブ連合会の協力を得て、全国に網羅する老人クラブの組織を活用して実施。

調査対象=老人クラブの会員及び老人クラブが行っている友愛活動の対象者のうち、介護保険の利用者で在宅で生活している高齢者。

○ 回答状況

平成12年7月7日までの回答件数は821件で回収率は69.6%であった。

第1回調査件数	1,180件	各都道府県と指定都市で20ケース
回答件数	821件	回収率69.6%
うち、無効	16件	
有効回答	805件	

○ 回答者の状況

(性別)

回答者の性別は、女性が490件(60.9%)で、男性が295件(36.6%)となっている。

(年齢)

年齢別では、殆どが65歳以上の第1号被保険者であるが、そのうち75歳以上の後期高齢者は553件と7割近くを占めている。

なお、第2号被保険者である65歳未満が19件あった。

年齢区分	回答件数	備 考
65歳未満	19件 (2.4%)	70歳以上75歳未満129件 65歳未満 19件(2.4%) 75歳未満 189件(23.5%) 75歳以上 553件(68.7%)
65歳以上70歳未満	60件 (7.5%)	
70歳以上80歳未満	280件(34.8%)	
80歳以上90歳未満	300件(37.3%)	
90歳以上	102件(12.7%)	
無回答	44件(5.5%)	

(世帯構成)

世帯の構成は、「子ども等との同居世帯」が433件で半数以上を占めており、続いて「夫婦のみの世帯」が211件、「一人暮らし」が147件という状況である。

「子ども等との同居世帯」と「夫婦のみの世帯」で、8割を占めている。

(家族介護者の有無)

家族介護者の有無については、「いる」が607件と多数を占めており、「いない」が171件で2割強あった。

世 帯 構 成	家族介護者の有無
子ども等との同居世帯 433件(53.8%)	いる 607件(75.4%)
夫婦のみの世帯 211件(26.2%)	いない 171件(21.2%)
一人暮らし 147件(18.3%)	無回答 27件(3.4%)
無回答 14件(1.7%)	

○ サービスの利用状況

(サービスの利用時期)

「介護保険によるサービスを利用する以前からサービスを受けているケース」が612件と多

数を占めており、「介護保険により初めてサービスを受けたケース」が179件で2割強となっている。

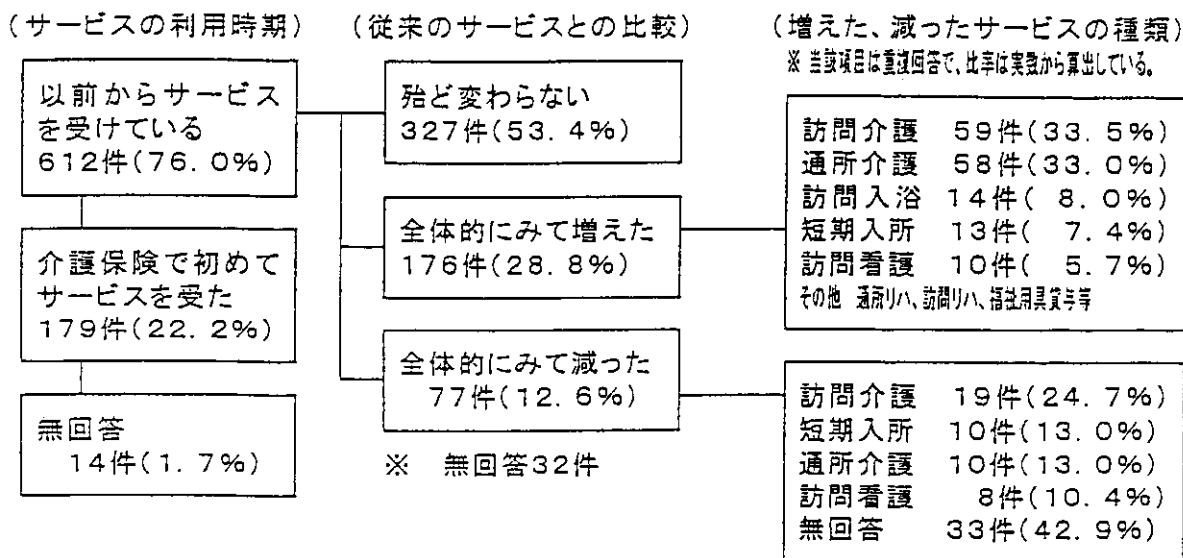
(従来のサービスとの比較)

以前からサービスを受けている612件を、介護保険制度によるサービスを以前から受けていたサービスと比較した場合、「殆ど変わらない」が327件と最も多く、続いて「全体的にみて増えた」が176件、「全体的にみて減った」が77件となっている。

(増えた、減ったサービスの種類)

なお、増えた主なサービスでは、「訪問介護」が59件、「通所介護」が58件と他のサービスに比べ多く、続いて、「訪問入浴介護」、「短期入所」、「訪問看護」の順となっているが、いずれも10数件であった。

また、減った主なサービスでは、「訪問介護」が19件、「短期入所」、「通所介護」がそれぞれ10件と続いている。



(介護保険の利用に伴う家族関係等の変化)

介護保険でサービスを受けることによって家族の生活意識や家族関係の変化については、あまり差はないものの「毎日の生活に張りが出てきた」が104件と最も多く、「在宅生活を送ることに意欲的になった」が88件、「家庭内の雰囲気明るくなった」が81件と続いており、精神的な負担軽減につながるような変化が伺える。

また、少数ではあるが、具体的な変化として、「引き続き在宅で生活を送ることになった」が22件、「家族と同居することになった」が5件あった。

なお、「特に変化はなかった」が72件で全体の約2割あった。

家族関係等の変化	回答件数	備考
A 毎日の生活に張りが出てきた	104件(29.3%)	介護保険により受けたサービスが初めてというケースの179件と以前からサービスを受けていた内、「全体的にみて増えた」というケース176件の合計355件の複数回答。(累計385件)
B 在宅生活を送ることに意欲的になった	88件(24.8%)	
C 家庭内の雰囲気が明るくなった	81件(22.8%)	
D 特に変化はなかった	72件(20.3%)	
E 引き続き在宅で生活を送ることとした	22件(6.2%)	
F その他	13件(3.7%)	
G 家族と同居することとなった	5件(1.4%)	
H 無回答	80件(22.5%)	

※ 選択肢の原文

- A 通所サービスなどの利用により、本人が外出する機会が増え、毎日の生活に張りが出てきた
- B 日常生活が楽になり、継続して在宅生活を送ることに意欲的になった
- C 家族の介護負担が軽くなり、家族間の会話が多くなるなど、家庭内の雰囲気が明るくなった
- E 施設への入所を希望していたが、在宅の介護サービスが増えたので、引き続き在宅で生活を送ることとした
- G 従来は施設に入所するなど家族と別居していたが、在宅介護サービスが増えたので家族と同居することとなった

○ 要介護認定の状況

(要介護認定結果)

認定結果は、「要介護1」が172件と最も多く、以下「要介護5」が124件と続いているが、「要介護2」から「要介護5」までは、ほとんど差はない。

なお、無回答も75件と1割近くあった。

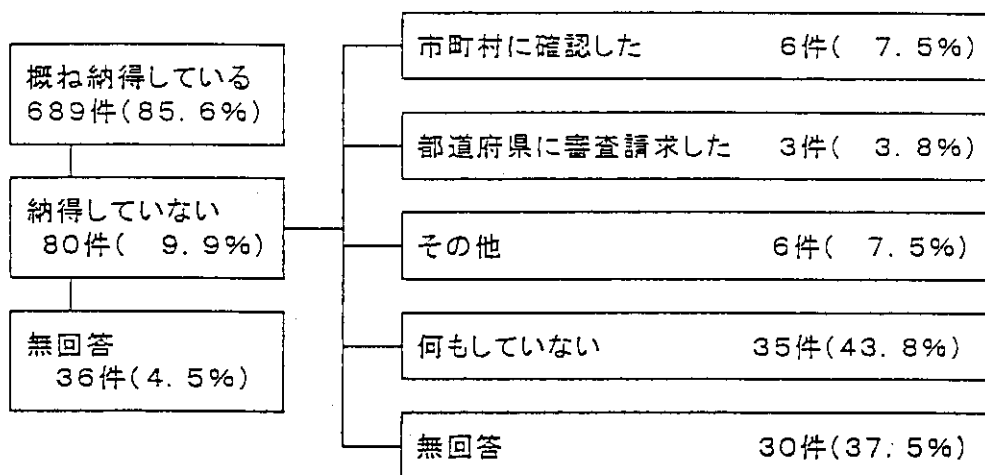
要介護度区分	件数(占有率)	全国の状況(H12.3月統計)
要支援	82件(10.2%)	81,663件(16.3%)
要介護1	172件(21.4%)	297,913件(26.8%)
要介護2	113件(14.0%)	192,154件(17.3%)
要介護3	119件(14.8%)	131,021件(11.8%)
要介護4	120件(14.9%)	116,230件(10.5%)
要介護5	124件(15.4%)	107,039件(9.6%)
無回答	75件(9.3%)	

(認定結果の評価)

認定結果について、「概ね納得している」が689件と多数を占めているが、「納得していない」も80件と約1割あった。

「納得していない」という80件のうち、とった対応としては、「市町村に確認した」が6件でとった行動の内では最も多く、ついで「都道府県に審査請求した」が3件となっている。

なお、80件のうち、「何もしていない」が35件、「無回答」が30件とそれぞれ4割前後あった。



○ ケアプランの作成等

(サービスの選択)

ケアプランを作成するにあたり、希望するサービスを選べることができたかについては、「選ぶことができた」が675件で8割強と多数を占めており、「選べなかった」が56件で1割弱という状況である。

なお、無回答も74件と1割近くあった。

(ケアプランに対する評価)

作成されたケアプランに対する評価は、「概ね満足している」が600件と最も多く、続いて「どちらともいえない」が110件、「満足していない」が53件となっている。

サービスの選択		ケアプランに対する評価	
選ぶことができた	675件(83.9%)	概ね満足している	600件(74.5%)
選べなかった	56件(7.0%)	満足していない	53件(6.6%)
		どちらともいえない	110件(13.7%)
無回答	74件(9.2%)	無回答	42件(5.2%)

○ サービスに関する状況等

(受けているサービスの種類 - 複数回答)

サービスの利用状況は、「訪問介護」が360件で一番高く、続いて「通所介護」が272件となっており、これらは他のサービスに比べ高い。次に「訪問入浴介護」、「福祉用具貸与」、「通所リハ」、「訪問看護」、「短期入所」と続いているが、それらの利用回数に大きな差はない。

サービス区分	回答件数	備考
訪問介護	360件(44.7%)	複数回答項目であり、累計で1408件の回答があった。 左記の割合については、有効回答数805件に占める割合で算出していることから、トータルすれば100を超える。
通所介護	272件(33.8%)	
訪問入浴介護	175件(21.7%)	
福祉用具貸与	144件(17.9%)	
通所リハ	141件(17.5%)	
訪問看護	140件(17.4%)	
短期入所	127件(15.8%)	
訪問リハ	49件(6.1%)	
無回答	76件(9.4%)	

(サービス内容の評価)

受けているサービスに対する評価は、「概ね満足している」が677件と8割強を占めており、「不満がある」が69件で1割弱あった。

(サービスの選択)

サービスを受けるにあたって、その選択の幅はこれまでと比較して、「特に変わらない」が449件と最も多く、続いて「広がった」が216件、「狭くなった」が53件という状況である。

(サービスの質)

受けているサービスの質はこれまでと比較して、「どちらともいえない」が464件と6割弱を占め最も多く、「良くなった」が220件、「悪くなった」が27件と続いている。

(サービスに対する苦情)

サービスに対する苦情について、これまでと比較して「どちらともいえない」が433件と5割強を占め最も多く、「言いやすくなった」が244件、「言いにくくなった」が26件と続いている。

サービス内容の評価	サービスの選択	サービスの質	サービスに対する苦情
概ね満足している 677件(84.1%)	広がった 216件(26.8%)	良くなった 220件(27.3%)	言いやすくなった 244件(30.3%)
不満がある 69件(8.6%)	狭くなった 53件(6.6%)	悪くなった 27件(3.4%)	言いにくくなった 26件(3.2%)
	特に変わらない 449件(55.8%)	どちらともいえない 464件(57.6%)	どちらともいえない 433件(53.8%)
無回答 59件(7.3%)	無回答 87件(10.8%)	無回答 94件(11.7%)	無回答 102件(12.7%)

○ 利用料

受けているサービスの量や内容等サービス全体からみて、その利用料について「概ね妥当な額だと思う」が367件と最も多く、「分からない」が168件で約2割あった。また、「高い方だと思う」が110件、「安い方だと思う」が105件と続いている。

回答内容	回答件数
概ね妥当な額だと思う	367件(45.6%)
分からない	168件(20.9%)
高い方だと思う	110件(13.7%)
安い方だと思う	105件(13.0%)
無回答	55件(6.8%)

東京都支部

介護保険

A会員の要介護度認定状況の報告

代表 笹森貞子

公的介護保険要介護認定調査について

一般的に、痴呆の介護保険の要介護認定は低く判定されるのではないかと言われていました。その理由としては、訪問調査項目内容への疑問、一度の訪問調査のみで、痴呆の実態及び特徴が把握できるかの不安、家族の介護努力の結果、本人の安定が保たれている場合でも、その点に対する評価項目が無いなどです。

会としてはそのことを踏まえて正確な認定を得るために、訪問調査員に実態をきちんと伝え、特記事項欄に記入していただくこと、さらにかかりつけ医とのコンタクトの大切さも勉強してきました。

要介護認定は決して重くでればよいと言うものではありません。しかし、今まで利用できていたサービスが低い要介護度により、利用できなくなることが気がかりでした。そのような心配のないよう正確な認定が願いです。

家族が制度を利用するに当って、制度について学び、今まで利用していたサービス等をも参考にして、日常の介護の実態に即していただきたいの要介護度を予想してみることは可能だと思います。そしてその予想と実際の認定介護度が合致することが望ましいのではないかと思います。

介護者の予想が、はたして正確だろうかという意見もあるかもしれませんが、私は現実的に日常介護に苦勞している家族の思いが一番大切と考えています。

以上のような観点から、東京都支部 A 会員

さんの要介護度予想と、認定介護度を調査させていただきました。昨年11月末から12月初めにかけて、世話人全員が分担して電話による聞きとり調査でした。当時認定結果の得られている方は少なく、その後、事務所や担当世話人に連絡をいただいたり、2月に郵送による問い合わせや再度の電話などで報告された認定内容をまとめました。A会員さんのご協力に心から御礼申し上げます。ここに3月31日現在の結果を報告させていただきます。

申請者の介護度認定結果について

1. 申請者数（表1）

連絡をとらせていただいたA会員236名中、申請しない方、これから申請する方、どうしても連絡のとれない方がいらして、把握できた申請者数は158名でした。そして3月31日までに認定結果の報告をいただいた方が152名です。

2. 認定介護度別人数（表2）

要介護1と2が10%台、要介護3・4・5がいずれも20%台で、会員さんの場合比較的軽度で特に要介護5が27%でした。

3. 認定介護度と家族予想介護度との相違

（表3）

この予想に関しては、要介護1～5まで、それぞれの表がありますがそれはスペースの都合で掲載いたしません、内容は以下の通りです。

- 要支援 同じ要支援と予想した人が67%。
- 要介護1 同じ1と予想した人が36%。1度下の要支援と予想した人が22%。
- 要介護2 同じ2と予想した人が33%。1度

表1 申請者数（3月31日現在）

申請者数	158人	
内	既認定	152人
	未認定	4人
訳	解答拒否	2人

表2 認定介護度別人数

要介護度	人数	%
要支援	3人	2%
要介護1	19人	13%
要介護2	15人	10%
要介護3	40人	26%
要介護4	34人	22%
要介護5	41人	27%
合計	152人	100%

上の3と予想した人が33%。

- 要介護3 同じ3と予想した人が45%。1度上の4と予想した人が20%。逆に1度下の2と予想した人が25%。
- 要介護4 同じ4と予想した人が41%。1度上の5と予想した人が18%。逆に1度下の3と予想した人が24%。
- 要介護5 同じ5と予想した人が70%。

以上をまとめたものが表3です。

予想通りの認定介護度が50%。予想より1度上の認定介護度と、2度上の認定介護度と合わせて25%。予想より1度下の認定介護度が15%。予想せずが10%でした。

予想せずの人が10%いますが、まあまあ妥当ではないかとの声もあり、予想通り、及び予想より1～2度上と合わせて85%の人がまあ満足と表現しています。しかし、予想より1度下の介護度の出た方が気がかりです。自治体にもよりますが、在宅サービス量が多少増えて、ケアプランである程度クリアできる部分もあると言われてはいますが実態は如何でしょうか。実際にサービスを利用して納得いかない点は、

表3 認定介護度と家族予想介護度との相違

予想と認定との関係	人数	%
予想通りの認定	76人	50%
予想より1度高い認定	27人	18%
予想より2度高い認定	11人	7%
予想より1度低い認定	23人	15%
認定の予想なし	15人	10%
合計	152人	100%

きちんと相談、苦情へと行動を起こすことがよいと思います。

会員以外からの電話相談では、やはり痴呆の認定介護度が低く、不服申し立てを考えているなどの声もあります。利用者家族も制度に関して勉強しなければならないと思いますが、基本的には、正確な要介護認定が得られるよう利用者家族も発言してゆかなければならないと思っています。

会員の皆様へさらなるお願い

4月1日からスタートした介護保険に関して、6日厚生省のまとめで全国の市町村に寄せられた苦情が、5日間で977件とわかりました。主な苦情内容は、利用者負担が199件、サービス不足とその内容など176件、ケアプラン作成遅れとその内容など132件、要介護認定156件などです。

家族の会も、会員の皆様のご協力で介護保険制度の事態調査を行いますのでその折はよろしくお願い致します。会としてなるべく現状を伝え、よりよい制度に育つことを願っています。

